

阿武町広報番組を活かして ～「あぶenglish」の取組を通して～

山口県国際教育研究会
山本 直

1 はじめに

昨年度は阿武町のコミュニティ・スクールの仕組みを活かして「婦人会英会話教室」を行ったり、地域の講座の中で「国際教育」に取り組んだりした。

新年度になって、さらに広がり求めて、新しい取組をしたことを紹介させていただく。

2 実践報告

(1) 阿武町広報番組の「あぶenglish」

①実施までの経緯

昨年はALTの活動として、「婦人会英会話教室」を中学校の教室を使って行った。これは阿武町の中学校のコミュニティ・スクールの仕組みを活かした取組の一つであった。

今年度の新しい試みとして「阿武町広報番組の中で英会話のコーナーを作りたい」と地域のケーブルテレビに相談をした。すると、年度末の番組再編の結果、取り入れて頂くことになった。



オープニング画面

英会話コーナーを提案したのは、①阿武町広報番組で放送することにより英会話や国際教育に興味を持ってもらえる、②婦人会の英会話教室に来れない方も外国語に触れることができる、という大きな理由があった。

またケーブルテレビ側の提案で「『阿武町の方言』を活用したものにすると良いですね」という話を頂き、あわせて取り組むことにした。

②ストーリーを意識した番組作り

年間を通して取り組むということで、時期的なものを意識して番組作りをするようにした。4月の放送では「はじめまして」というテーマにした。「新入社員が会社に着任をした。職場に外国の人がいた。そんなときに、どんな挨拶をしたらよいか？」ということで話を展開した。



今回のテーマ



場面の解説

特に気を付けたことは、本当に使う可能性がある英語を使うようにした。また、必ず繰り返しの場面を作って、視聴者が声をだしてみたいくなるような番組構成にした。



分かりやすく表示する



実際の場面をイメージ



必ず復習の場面を取り入れる

<視聴者の反応>

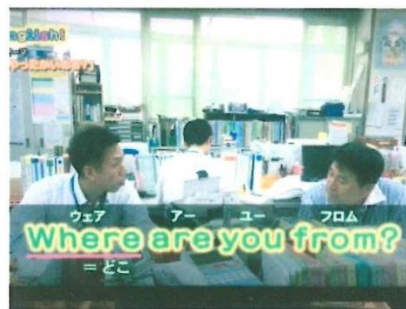
- 「分かりやすく、見ていておもしろかった。」
- 「知っている人が出ているので、楽しく見ることができた。」
- 「次回の放送が楽しみです。」
- 「実際に使ってみたいです。」

初回の放送後の地域の方の反応は、まずまずだった。

(2) 継続することの大切さ

初回の放送の収録後、出演者の転勤があった。担当者が変わるとその取り組みは縮小してしまうことがあるが、後任の方が進んで取り組んでくださった。

番組の継続が心配されたが、後任の方のご尽力のおかげで、2回目以降も収録が行われた。本当にありがたいことである。



後任の方の取組

また、「婦人会英会話教室」も継続して行っている。これまでのALTが7月に帰国して、新しいALTが着任したが、快く引き受けくださり地域の外国語活動に関わっている。本当にありがたいことである。



新しいALTとの英会話教室



町の住民が英会話に興味を持ち続けているのは、おそらく、町単独としてALTを雇用して20年以上になる歴史があることや外国人に関心を持つ人が町の中にも増えていることがあると思われる。

2015年夏に行われた「世界スカウトジャンボリー」では、町内の全小中高等学校に外国のスカウトが訪れるたことがあり、外国人を身近に感じたり、英会話に関心をもったりするきっかけになったといえる。

この流れを2019年「ラグビーワールドカップ日本開催」や2020年の「東京オリンピック」につなげて気運の高まりになるとよいと思う。

3 まとめ

阿武町の小中学校がコミュニティ・スクールになって3年目になる。

先行事例を参考に、取組を模索していたが、少しずつ阿武町らしい取組が定着している。また、町の「英会話教室」「国際教育」も少しずつ広がりが見えてきている。可能な限り時間をみつけて、少しずつ取組を広げていけるようになれば良いと思う。

阿武町は、人口約3,400人の町である。46%が65歳以上であり、高齢者の「学びの場」がさらに重要になってくる。

「知的好奇心」をもっている人は高齢者世代の方が多いかもしいない。しっかりと対応出来るような「阿武町コミュニティ・スクール」であり、「阿武町の社会教育」でありたい。今後も支援を続けていきたいと思う。